

様式第1号

会 議 録

会 議 の 名 称	第3回 所沢市産業振興ビジョン策定委員会
開 催 日 時	平成29年2月20日(火)10:00~12:00
開 催 場 所	所沢市役所高層棟7F 研修室
出 席 者 の 氏 名	朝倉はるみ 荻野敏行 河藤佳彦 久野美和子 千年篤 政所利子 工藤浩一 (代理出席:村山聡)
欠 席 者 の 氏 名	
説 明 者 の 職 ・ 氏 名	
議 題	(1) 個別ヒアリングの開催結果及び分析結果(現状・課題等)について (2) 基本理念・基本方針(たたき台)について (3) 意見交換等 (4) その他
会 議 資 料	資料3-1:個別ヒアリングの開催結果及び分析結果(現状・課題等) 資料3-2:基本理念・基本方針(たたき台) 参考資料1:所沢市産業振興ビジョン策定に係る個別ヒアリング会議録 参考資料2:所沢市産業振興ビジョン 全体構成(目次案) 参考資料3:産業振興に関する議員提案リスト(平成24年度~28年度) 参考資料4:所沢市地域産業実態調査における自由回答(意見・要望等)集計結果
担 当 部 課 名	産業経済部 産業振興課 課長 青木邦雄 主査 原田裕之 主査 村田貴紀 主査 板垣昭彦 主任 菅井悠登 主事 佐藤絢 産業経済部 商業観光課 課長 柳田晃芳 主任 石山大 主事 田口孔一 産業経済部 農業振興課 課長 三枝恵一 主任 須田芳人 主任 橋本賢治 産業経済部産業振興課 電話 04-2998-9157

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
青木課長	開会
河藤委員長	あいさつ
事務局	<p>議題（1）個別ヒアリングの開催結果及び分析結果（現状・課題等）について</p> <p>（2）基本理念・基本方針（たたき台）について</p>
事務局	<p>資料3-1～3-2に基づき説明。</p> <p>議題（3）意見交換</p>
委員	<p>産業振興ビジョンの策定には多くの団体や市民にその策定のプロセスを明らかにしながら関わってもらうことが重要であると考えるが、素案ができた段階でもう一度業界団体との懇談会を開催するような計画はあるのか。</p>
事務局	<p>当初予定としては、素案ができた段階で各業界団体とのヒアリングをもう一度行うことを想定している。各団体が一堂に会する形での懇談会の開催は未定だが、前回開催したときに今後の継続的な開催を期待する要望が多く聞かれたので、できるだけ行う方向で検討していきたい。</p>
委員	<p>単なる意見交換会ではなく、産業振興ビジョンの策定に係る懇談会について行う予定があるのか、ということ聞いたのだが。</p>
事務局	<p>その点でいえば、もう少し素案が固まった段階で、各団体への個別ヒアリングを行う予定としている。</p>
委員	<p>個別ヒアリングを見ると、中身が濃い団体と薄い団体とがある。特に観光協会などはもっと意見があってしかるべきではないかと思う。もっと意見を吸い上げてほしいと思う。</p> <p>「地域ブランド」という言葉はよいが、具体的に何をどうしたらよいのかわからない。また、市が考えている「地域ブランド」と</p>

	<p>各業界が考える「地域ブランド」との間に齟齬があるように思う。市がどのようなことをもって「地域ブランド」と考えているのか、その方向性が見えない。言葉だけでなく具体的な進め方まで含めて提示してほしい。</p> <p>COOL JAPAN FOREST 構想や駅前開発は確かに大きなプロジェクトだが、あくまでも民間事業である。いずれも本気で開発に取り組んでくれているので、その思いには応えなくてはならないと思うが、それに頼るのではなく、市として進めていくプロジェクト、取組をもっと示すべきではないか。また、市内事業者だけでなく、大手ディベロッパーの開発ノウハウを市内のまちづくりに活かせるようなコンペをしてもよいのでは。</p> <p>市の中心的な顔となる商店街といえばプロペ通りだと思うが、今はすっかり若者中心の商店街になってしまって、高齢者が楽しめるまちではなくなってしまった。これからの高齢化の進行を鑑みると、もっと高齢者も落ち着いて遊べるまちづくりが必要ではないか。外部から来た人からも、駅から旧庁舎に向かって歩いている途中で、ちょっと座れる、休憩できる場所がないという指摘をたまに聞く。休憩できるベンチや小公園などのスポットをつくり、旧庁舎と駅を行き来できるようなまちづくりが必要である。</p> <p>基本理念・基本方針（たたき台）の中に、外国人に関する記述が見えない。市として外国人の扱いをどう考えるのか、方針を示すべきではないか。</p> <p>駅前開発については、新しいテナントが商店街や商工会議所に加盟してもらうことが重要である。あらかじめ新しいテナントで構成する商業団体を立ち上げておいた方がよいのではないか。</p> <p>具体的な事業や施策への指摘・提案も多くいただいたが、重点プロジェクトやアクションプランで反映すべきものもあるだろう。事務局で少し整理してもらいたい。</p> <p>「中小企業の支援」が第一に掲げられているが、今、国としては「地域中核企業創出・支援事業」として、地域を牽引する企業（＝地域中核企業）を数多く創出し、その成長を促す支援を行うことに力を入れているので、そのような国の施策も踏まえて今後の支援策を検討されるとよいと思う。</p> <p>どの産業でも、後継者不足が一番の課題と聞くが、その対策とし</p>
委員長	
委員	

	<p>て、次の経営を担う若い世代が集まる機会を作ることが有効である。様々な業界の次期経営者同士が交流することで後継者の育成と産業活性化につながる。</p> <p>企業誘致も重要であるが、今所沢市にいる会社をいかに他に移転させないか、いかにして市にとどまってもらうかという視点での支援策も重要であろう。</p> <p>外国人については、インバウンド（訪日外国人旅行者）について市としてももっと積極的に考えてもよいのではないか。</p> <p>現在、国では、企業立地促進法の法改正に向けた議論が進められている。具体的には、新たに地域未来投資促進法（仮称）を制定し、地域経済をけん引する地域中核企業等による未来投資を支援していこうとしている。まだ検討段階ではあるが、具体的には、成長が見込まれる産業への設備投資の支援や法規制の緩和、補助かさ上げなどが考えられる。こういった情報も適宜提供していきたいと考えている。</p>
委員長	<p>「地域中核企業」とは、かつての企業城下町をイメージさせるような大企業のことではなくて、様々な業種・企業をつなぐハブとなる企業という意味でとらえるべき。</p>
委員	<p>産業政策は多岐にわたるため、全体的には網羅しているように思うが、いくつか抜けている視点があるのではないか。</p> <p>例えば、所沢市の立地特性について、観光としてはどうか、住む場所としてはどうか、働く場所としてはどうか、ものづくりをする場所としてはどうか、など、もっと様々な視点からとらえる必要があるのではないか。日本のものづくりの方向性は近年大きく変化している。所沢市には、市場に近いところでものづくりができるという利点があるが、そのようなメリットを発揮させるためには、中小企業同士が連携していかないといけない。その意味で、東京圏の中での所沢市の立地特性を踏まえ、「都市型産業」という点をもっとしっかり書く必要があるのではないか。</p> <p>議員提案の中に、「ブランド認証」があった。認証制度自体はあまり重要ではないが、（地域）ブランドということを様々な主体が考える下地を作ることは大切である。</p> <p>また、「農地付き住宅構想」についての提案もあった。後継者不足・第一次産業の振興・定住の促進という3つの課題をクリアする</p>

	<p>政策として重要なアプローチかもしれない。</p> <p>今、都心では若い夫婦が子育てしやすい環境を求めて移動している。選ばれている地域をみると、子育てを助ける文化があるかどうか、コミュニティがあるかどうか重要なカギとなっているようである。文化やコミュニティも踏まえた産業政策を考えることが重要ではないか。</p> <p>「地産地消の推進」にしても、例えばこういう会議の場でちゃんと狭山茶を急須で入れることは重要。できることから取り組むことが大切である。たたき台とはいえ、具体的に何から取り組むのかを盛り込むべきではないか。</p> <p>国が進めてきた「COOL JAPAN」政策は大失策だったと思っている。結局関連企業が一過性で儲かっただけで、住民に定着しなかった。私が関わっているプロジェクトでは「COOL JAPAN」という言葉はもう使っていない。所沢市の場合は「COOL JAPAN FOREST 構想」という名称が決まっているので使わないという訳にはいかないと思うが、変に誤解されないよう、特に市民に対してはきちんと説明する必要があるのではないか。</p> <p>インバウンド（訪日外国人旅行者）にしても、東京に近いベッドタウンとしての特性を活かせば、民泊で受け入れるというだけでなく、例えば親せきや友達が数日間滞在するようなショートステイでの観光もあり得るのではないか。所沢市の立地特性をもっと勘案して、観光という言葉を使い分けるべき。</p> <p>所沢市の個性については、現状と課題の中で優位性についても明確に示していくことが必要であろう。生活都市としての所沢市の優位性をもっと意識することが重要である。</p> <p>資料 3-2 の課題「10」に「地域経済の活性化による税収の確保と雇用の創出」とあり、これと同じ文言が基本方針の後の「目標」にも掲げられている。市の目標として税収の確保を図りたいという思いはわかるが、課題に入れるべきではないのでは。</p> <p>市民や多くの事業者、産業団体など幅広い主体に産業振興ビジョンを理解してもらうためには、流れももっとシンプルにしていた方がよいのではないか。例えば「目指す都市像」と「基本理念」を一つにしてしまってもよいかもしれない。</p> <p>基本方針の中に、「住みたいまち日本一」を目指す所沢市、とい</p>
委員長	
委員	

	<p>う文言が出てくるが、産業振興ビジョンなので、「住みたいまち」よりも「事業を続けやすいまち」「新たな事業を興しやすいまち」など、産業に特化した視点を打ち出す方がよいのではないか。その意味では、市内事業者をよりサポートしていく姿勢をもっと強く出すべきである。事業を続け、また興すにふさわしいまちであるということをもっと端的にアピールできるとよいのではないか。</p> <p>米国サンフランシスコでいえば、所沢市はシリコンバレーに近いように思う。シリコンバレーはサンフランシスコの中心地よりは少し離れているが、暮らしやすく仕事しやすい場所である。所沢市にもそのような suburb (郊外) としての魅力があるように思うので、それをもっとアピールするべきではないか。</p> <p>外国人については、インバウンド（訪日外国人旅行者）だけでなく、これからは住む人、働く人としての外国人が増えていく可能性が高い。多様な働き方や事業の興し方という点を念頭に置いた上で、起業支援や企業誘致を検討するべきであろう。</p>
委員長	<p>課題「10」にある「雇用の創出」という視点は必要である。ただこの表現のままでは確かに「目標」との重複感もあるので、検討してもらいたい。</p> <p>生活都市としての魅力を踏まえた産業都市としての在り方がうまく表現できるとよいと思う。</p>
委員	<p>資料 3-2 は全体的に面白いと思った。特に、これからは生活と産業を融合させていくという視点が面白いと思う。キーワードの出し方は再考の余地があるとしても、そのように生活と産業の融合という観点から横軸を作っていくという発想は大切である。</p> <p>これまでの中小企業支援策は、基本的には「底上げ」方式であったが、これからの中小企業支援は、頑張っているところを引っ張り上げることで周りにもやる気を促していくという方向性を取るべきである。所沢市においてもその路線が盛り込まれている点はよいと思う。</p> <p>「産業人材の確保」という点についていえば、必要なのは次のイノベーションを起こすプロデューサーである。いろいろな人や企業を巻き込み、ひきこみ、イノベーションを起こしていくことができる推進力のある人材が必要である。</p> <p>「用地の不足」という課題については、記載しなくてもよいが、</p>

<p>委員長</p>	<p>休耕地や耕作放棄地の扱いが気になった。所沢市では休耕地や耕作放棄地の活用や流動化は進んでいるのか、もし進んでいないのなら何が問題となっているのか、推進する上での農業者の意識はどうかを把握し、流動化を図ることも重要だろう。</p> <p>「所沢ブランド」は確かにどう考えたらよいのか難しいが、市には潜在的なポテンシャルがあるので、それを活かしていければよいのではないか。</p> <p>（生活と産業の）「融合」という言葉はとても良いと思う。質の高い生活とそれに見合った産業を融合させていくという発想は大切である。</p> <p>休耕地、耕作放棄地については、アンケートでも多少話が出ていたように思う。先ほどの「農地付き住宅構想」や体験型農業などの視点も踏まえ、農業と生活とを結び付けていく工夫も必要だろう。</p>
<p>委員</p>	<p>基本理念と基本方針は、その検討過程を順を追って見ていけばわかるが、基本理念と基本方針だけを見ると、何が上位目標なのかがよくわからない。何となく戦後の官民一体で産業振興を図っていくという時代のビジョンのようにも見えてしまう。民間でできることは民間でやり、行政がやるべきことは行政がやる、さらに民間任せではうまくいかない部分は行政がファシリテーターやコーディネーターとしての役割を発揮する、という視点が必要ではないか。</p> <p>「生活・産業都市」という視点はよいと思う。所沢市はベッドタウンで居住者はそれなりにいるが、多くは地元で働かず外に働きに出てしまっている。産業もあるが地域住民を商売先としてみていないので地元消費が進まない。生活と産業が融合していないというのが現状。これを転換し、これからは居住者が地域で働き地域で消費する、というように、生活と産業を融合させていくという発想はよいと思う。「生活密着型産業都市」とか「生活・産業融合型都市」といった表現の方がよいかもしれない。</p> <p>「現状と課題」の中で、所沢市内の地域性の違いについての課題認識が抜けていると感じた。所沢市は市内の地域性が多様である。今後、分散型の地域構造をどうしていくのか、地域間の融合をどう図っていくのかという視点が課題の中になかったのが気になった。</p> <p>また、5つの「目指す都市像」のひとつに「観光」が据えられているが、5つの基本方針の中に「観光」が弱い気がする。もっと「観</p>

<p>委員長</p>	<p>光」を打ち出してもよいのではないか。</p> <p>現状と課題から基本理念・基本方針への流れを一目で見やすくするようなポンチ絵が必要ではないか。イメージが先行するのはよくないが、一見してわかる図があるとよいと思う。</p> <p>確かに資料 3-2 が一目でわかる概念図を作って説明していけば、多くの人にもわかりやすいだろう。</p> <p>また、誰がやるのか（実施主体）やどのようなスケジュールでやるのか、を示すことは重要である。それを基本理念で示すことも確かに一案ではあるが、重点プロジェクトやアクションプランで示してもよいのではないか。示し方は事務局で検討してもらいたい。</p> <p>商店街なども確かに地域によって個性は様々である。地域住民に密着した商店街もあれば、むしろ来訪者に目が向いている商店街もあるだろう。地域との関わりの中で様々な個性が成立していることを念頭に置いておくことは重要だろう。</p> <p>これまで委員各位から出た意見は、基本理念・基本方針に反映させるべきものと、個々の施策や重点プロジェクトの検討に反映させるべきものと両方含まれている。事務局において整理したうえで、基本理念・方針の修正等を検討してもらいたい。</p>
<p>委員</p>	<p>課題 10 については、私も削除すべきだと思う。産業振興ビジョンにおいて「税収の確保」が課題と言ってしまうと、大企業誘致を図ろうとしているように読み取れてしまい、中小企業の振興や地域循環型の経済の創出といったその他の施策を全て否定することになる。「雇用の創出」という課題は確かに重要であるが、「税収の確保」を課題に挙げるべきではない。誤解が起きないように整理が必要ではないか。</p>
<p>委員長</p>	<p>生活と産業を融合させることにより、市民生活の質的な向上につなげていくという視点は重要であるが、「税収の確保」という言葉ではそこまでは読み取れない。産業振興には、①地域に付加価値を生み出し外貨を得る、②得た資金が地域の中で循環し、地域住民がその恩恵を受ける、という大きな2つの目的がある。また、大きな雇用は生まないかもしれないが、伝統産業や農業などは地域のブランド化や生活の質を向上させていく上で重要である。その先に税収の確保、拡大という結果があるのだが、こういったことを丁寧に説</p>

	<p>明していかないと、単にひとつ「税収の確保」というだけでは誤解を生みやすい。</p>
委員	<p>官民協働を目指すのならば「税収の確保」はおかしい。</p>
委員長	<p>確かに協働という概念はもっと強く打ち出してもよいだろう。</p>
委員	<p>所沢市には、狭山丘陵や里山広葉樹林があり、また「COOL JAPAN FOREST 構想」という構想名称の中に「FOREST（森）」が入っていることから示されるように、豊かで多様な自然が残されている。しかし、そういった自然の多様性や豊かさを活かすという視点が弱いように思う。</p>
委員長	<p>自然や文化は産業振興の観点からみても確かに重要な資源であり、盛り込むべき視点であろう。</p>
	<p>議題（４）その他</p>
委員長	<p>次回の委員会の議題はどのような内容になるのか。 できれば委員長だけでなく副委員長にも事前に資料を見てもらい、意見を踏まえてから次回の委員会で委員各位に諮れるとよいと思うが。</p>
事務局	<p>次回の日程はあらかじめいただいている各位のスケジュールを踏まえ、平成 29 年 4 月 18 日（火）午前中をお願いしたい。 次回の委員会では、今日いただいた意見を踏まえ基本理念・基本方針を再検討するとともに、具体的な施策やアクションプランなども検討してご提示する予定である。資料はなるべく早くご提示したいと考えている。</p>
	<p>閉会</p>

以上